

2018 年 11 月 7 日

中国改革開放 40 周年・深圳の歩みと今 (5) ～ 民営企業のエコシステム ～

2018 年は中国が改革開放政策に転換してから 40 周年に当たります。経済特区という位置付けの下、改革の「実験場」として、対外開放の「窓口」として改革開放政策を主導してきた深圳市は、急速な発展を遂げ、かつての小さな漁村から「世界の工場」へ、そして昨今は「イノベーション都市」に変貌しつつあります。前回までの本レポートでは、「イノベーション都市・深圳」を支えている民営企業の躍進の概況を紹介しましたが、本稿では、民営企業躍進の背景の一つ、民営企業のエコシステムについて簡単に纏めます。

民営企業のエコシステム

前号の本レポートで言及した通り、深圳市ではここ数年、民営企業が大幅に増えており、その中からユニコーン¹に育つ企業も相次いでいます。

2018 年 3 月に中国科学技術部火炬科技産業開発中心と民間調査会社の長城戦略諮問が共同で発表した『2017 中国ユニコーン企業発展報告』(以下、『発展報告』)では、中国のユニコーン企業 164 社をリストアップ。このうち、本社所在地が深圳市の企業は 14 社が選出されました(図表 1)。

深圳市でこうした新興企業の誕生を支えている一つの仕組みが、民営企業が民営企業を産み出すエコシステムです。一定規模に成長した民営企業が新会社を設立したり、スタートアップに出資や支援したりするなど新興企業を創出するエコシステムが形成されているのです。

図表 1: 深圳市のユニコーン企業

社名	評価額 (億 USD)	業種	概要	設立
菜鳥網絡 (Cainiao Network)	200	物流	アリババ傘下の総合物流サービス	2013
微衆銀行 (We Bank)	92.3	フィンテック	テンセント傘下のオンライン銀行	2015
優必選科技 (UBtech)	40	AI	人型ロボット	2012
聚宝匯 (JBH)	40	フィンテック	海航集団 (HNA) 傘下のオンライン融資	2014
騰訊雲 (Tencent Cloud)	33	クラウドサービス	テンセントのクラウドサービス部門	2010
柔宇科技 (Royole)	30	ハードウェア	超薄型フレキシブルディスプレイ	2012
土巴兔 (Tubatu)	20	電子商取引	内装工事のオンライン取引プラットフォーム	2008
豊・科技 (Hive Box)	13.85	物流	宅配ロッカー	2015
随手科技 (Suishouji Technology)	10	フィンテック	資産管理アプリ	2008
房多多 (Fangduoduo)	10	不動産テック	不動産オンライン取引プラットフォーム	2011
辣媽幫 (Lamabang)	10	SNS	母親向け情報・交流サイト	2012
越海全球供应链 (YH Global Logistics)	10	物流	サプライチェーン管理	2012
奥比中光 (ORBEC)	10	ハードウェア	3D センサー	2013
碳雲智能 (IcarbonX)	10	ヘルステック	ヘルスケア・アプリ (医療・ヘルスケア関連データ収集・解析)	2015

(注1) 業種は『2017 中国ユニコーン企業発展報告』から抜粋、概要は筆者が追加

(注2) 評価額は変動している場合有

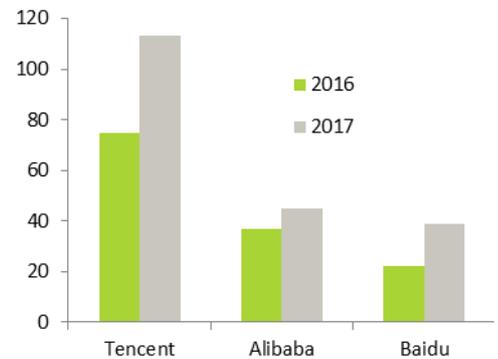
(出所) 『2017 中国ユニコーン企業発展報告』を基に作成

¹ 未上場で評価額が 10 億米ドル以上の企業を指します。

例えば、1998年設立の騰訊(Tencent)は当初、インスタントメッセージング(IM)サービス「QQ」を主力にユーザーを集め、そのユーザー基盤をベースにサービスを拡大、進化させるとともに、資金や関連技術を蓄積。近年はAIを駆使した小売や金融、ヘルスケアなど広範な分野に参入し、一つの「エコシステム」を築いています。また、スタートアップの育成・支援を強化すべく、創業支援のオンラインプラットフォームやコワーキング・スペース、コーポレート・ベンチャー・キャピタル(以下、CVC)を設立。このうち、中国メディアによると、CVCである騰訊産業共贏基金は2011年設立以降、延べ600社以上に投資、投資額は1,000億元を超えています。特に、2015年以降、投資案件が急増し、2017年は一年間で約120社に投資、百度(Baidu)、阿里巴巴(Alibaba)の投資案件合算数を上回る規模だったとされています(図表2)。足許では投資先企業の上場が相次ぎ、2017年9月以降に上場した企業は図表3の通りです。

このほか、1988年に中国初の株式制保険会社として設立された中国平安保険(以下、平安保険)は、保険を中核に銀行業や資産運用業などにも業務を拡大し、総合金融サービスグループに脱皮。最近ではイノベーション科学技術への投資を増やし、ここ10年ほどで500億元以上をフィンテック、医療科技、AIといった分野に投資しています(図表4)。スタートアップ支援事業では、ベンチャーキャピタル(VC)である平安創新投資基金を創設しているほか、平安韓国のアクセラレーターであるSpark Labsと共同でフィンテック・アクセラレーターである平安金融科技加速器を設立するなど、フィンテック分野を中心に創業支援を強化しています。

図表2: BATの投資件数(2016・17年)



(出所)各種報道等を基に作成

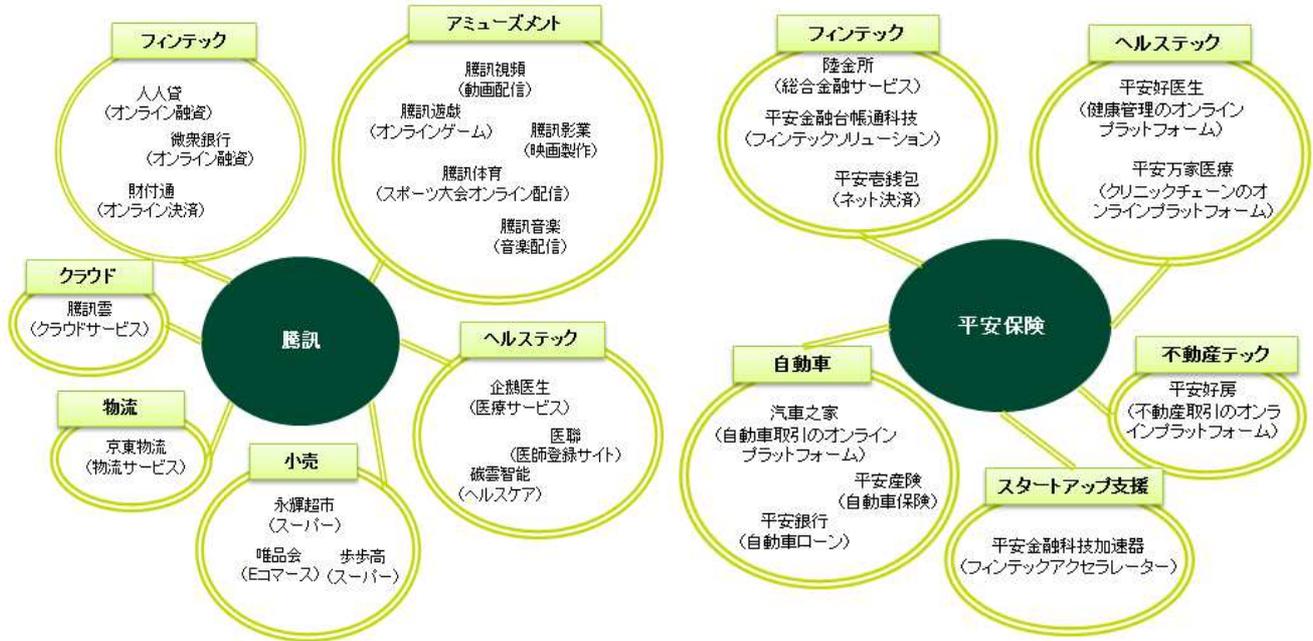
図表3: 騰訊の投資先で上場した企業(2017年9月以降)

社名	概要	上場日	上場先	時価総額 (10億USD)
衆安在線 (ZhongAn Online P & C Insurance)	インターネット専門保険	2017/9/28	香港	6.492
閱文集団 (China Literature)	電子書籍	2017/11/8	香港	5.898
搜狗 (Sogou)	検索エンジン	2017/11/9	米国	3.150
易鑫集団 (Yixing Group)	自動車販売オンラインプラットフォーム	2017/11/16	香港	2.131
哔哩哔哩 (Bilibili)	動画共有サイト	2018/3/28	米国	3.462
虎牙 (Huya)	ゲームライブストリーミング	2018/5/11	米国	5.095
優信 (Uxin)	中古自動車取引オンラインプラットフォーム	2018/6/27	米国	1.594
美团天評 (Meituan-Dianping)	生活関連サイト	2018/9/20	香港	49.316

(注)時価総額は2018年9月21日時点

(出所)ブルームバーグ、各種報道を基に作成

図表 4: 騰訊及び平安保険の傘下又は資本参加企業(一部)



(出所) 各社ウェブサイト、各種報道等を基に作成

(執筆: 株式会社三井住友銀行 コーポレート・アドバイザー本部 香港グループ)

本誌内容に関するご照会は、お取引店までご照会ください。